【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成26年5月8日(2014.5.8)

【公表番号】特表2012-518210(P2012-518210A)
【公表日】平成24年8月9日(2012.8.9)
【年通号数】公開・登録公報2012-031
【出願番号】特願2011-551172(P2011-551172)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　6/02　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　6/44　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　6/02　Ｂ
Ｇ０２Ｂ　6/44　３３１

【誤訳訂正書】
【提出日】平成26年3月17日(2014.3.17)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００２９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００２９】
実施例２
本発明の光ファイバケーブルの一実施形態の一つの例は、直径が約５００ミクロンの石英ガラス製のコアと、厚みが５０ミクロンのフッ素がドープされた石英ガラス製のクラッドと、厚みが約６０ミクロンのアクリレートコーティングと、外径が１／８インチ（３．１７５ミリメートル）のステンレス鋼製の保護層と、約２ｋｍの長さとを有している。該ファイバの開口数（ＮＡ）は０．２２である。この実施例のファイバは、好ましいレーザーからの約１０ｋＷ（キロワット）のパワーのレーザービーム（波長が１０８０ｎｍ）を、約２ｋｍの距離に亘って、約１５０℃以下の温度及び大気圧下で、０．８ｄＢ／ｋｍ未満のパワー損失で伝達させることができる。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００３０
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００３０】
実施例３
本発明の光ファイバケーブルの一実施形態の一つの例は、直径が約６００ミクロンの石英ガラス製のコアと、厚みが６０ミクロンのフッ素がドープされた石英ガラス製のクラッドと、厚みが約９０ミクロンのアクリレートコーティングと、外径が１／８インチ（３．１７５ミリメートル）のステンレス鋼製の保護層と、約０．５ｋｍの長さとを有している。該ファイバの開口数（ＮＡ）は０．１７である。この例のファイバは、好ましいレーザーからの約１０ｋＷ（キロワット）のパワーのレーザービーム（波長が１０８０ｎｍ）を、約０．５ｋｍの距離に亘って、約２００℃以下の温度及び大気圧下で、１ｄＢ／ｋｍ未満のパワー損失で伝達させることができる。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
高パワーレーザーエネルギを過酷な環境下で長距離に亘って伝達する光ファイバケーブルであり、
入力端と出力端とを有し、約２ｋｍより長い長さの光ファイバケーブルからなり、
該ケーブルは、約３００ミクロンより大きい直径を有する中実のコアと、クラッドと、高温ポリマーを含むコーティングと、第一の保護層と、当該ケーブルに機械的強度と損傷抵抗とを付与する材料からなる第二の保護層と、を備えており、
前記ケーブルは、約１０ｋＷ以上のパワーを有するレーザーエネルギを、該ケーブルの全長に亘って、約２ｄＢ／ｋｍ未満のパワー損失で伝達することができるようにされ、
前記ケーブルの前記出力端にまで伝達されたレーザーエネルギが、実質的に誘導ラマン散乱を含まないスペクトルを有する、ことを特徴とする光ファイバケーブル。
【請求項２】
前記入力端に入力されるレーザーエネルギのパワーと前記出力端から出力されるレーザーエネルギのパワーとが実質的に線形関係となる、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項３】
前記レーザーエネルギが、誘導ラマン散乱スペクトル帯域が存在することなく伝達する、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項４】
前記第二の保護層が鋼である、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。
【請求項５】
前記第一の保護層がゲルである、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。
【請求項６】
前記コーティングが高温ポリマーである、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項７】
前記コーティングが高温ポリマーである、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。
【請求項８】
前記コーティングが高温ポリマーであり、前記第一の保護層がゲルであり、前記第二の保護層が鋼である、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。
【請求項９】
当該ケーブルの長さが約４ｋｍより長い、ことを特徴とする請求項８に記載のケーブル。
【請求項１０】
当該ケーブルの長さが約４ｋｍより長い、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項１１】
当該ケーブルの長さが約４ｋｍより長い、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。
【請求項１２】
前記コアの直径が少なくとも約５００ミクロンである、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項１３】
前記ケーブルの前記出力端が、前記ケーブルの前記入力端で受け取ったレーザーエネルギの少なくとも約６０％を給送できる構造とされている、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。

【請求項１４】
前記ケーブルの前記出力端が、前記ケーブルの前記入力端で受け取ったレーザーエネルギの少なくとも約６０％を給送できる構造とされている、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。
【請求項１５】
前記ケーブルはコイル状に巻くことができ、前記コイル状に巻かれたケーブルの外径が約６ｍ未満である、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項１６】
伝達された前記レーザーエネルギの波長が約８００ｎｍから２０００nmの間である、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項１７】
伝達された前記レーザーエネルギの波長が約８００ｎｍから２０００nmの間である、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。
【請求項１８】
前記レーザーエネルギのパワーが約２０ｋｗより大きい、ことを特徴とする請求項１に記載のケーブル。
【請求項１９】
前記レーザーエネルギのパワーが約２０ｋｗより大きい、ことを特徴とする請求項２に記載のケーブル。